

日本リハ医学会近畿地方会Newsletter



平成25年度 第1号
2013年7月16日発行

近畿地方会ホームページ
www.kinkireh.com

日本リハビリテーション医学会 近畿地方会事務局
大阪医科大学 総合医学講座 リハビリテーション医学教室 佐浦 隆一

お問合せ先
〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町93番地 KRP6号館304号
有限会社 セクレタリアット内 近畿地方会事務局
TEL: 075-315-8472 FAX: 075-315-8472 E-mail: office@kinkireh.com



近畿地方会各府県におけるリハ活動

京都府

京都市域包括ケアシステムと地域リハ推進事業の展開と課題

京都府リハビリテーション支援センター
京都府立医科大学神経内科 武澤 信夫

1. 総合リハビリテーション推進事業の展開

2005年に、京都府では健康福祉部リハビリテーション支援センターを発足させ、京都府立医大附属病院内に設置した。そして、6医療圏域の基幹病院に地域リハ広域支援センターを指定し、圏域連絡会をつくり保健所が事務局となって推進してきた。そして、府リハ支援センターでは地域リハ支援推進事業と併せて、2007年より高次脳機能障害支援普及事業の支援拠点となり、2008年より京都府医師会等と協働して京都府共通の大腿骨近位部骨折地域連携パス及び脳卒中地域連携パスを運用してきた。

この経験と第5次医療法改定を踏まえて、2010年には脳卒中をモデルとした「総合リハ推進プラン」を策定し、リハ供給体制整備の必要性を明確にした。2011年度より3年計画で、①人材育成：PTなど修学資金貸与、リハ専門職就業フェア、地域偏在の解消、②施設の拡充：地域リハ支援センターのリハ機能整備、回復期リハ病棟整備、訪問リハ整備、③連携体制のシステム化：地域連携パスのIT化、地域リハ・コーディネーター配置、京都市域リハ支援センターの開設を行っている。

2. 京都市域包括ケアシステムの構築

同時に、京都府では「地域包括ケアシステム推進プラン」策定し、「総合リハ推進プラン」をその一環に位置づけた。京都市域包括ケアシステムの目標は、2025年に「高齢者が住み慣れた地域で、医療、介護、福祉のサービスを組合せることで24時間、365日安心して暮らせる社会」である。2011年度よりオール京都で京都地域包括ケア推進機構を組織し、6つのプロジェクト事業

①在宅療養あんしん、②認知症ケアトータルモデル、③地域におけるリハビリ支援、④地域で支える生活支援、⑤介護予防プログラム構築一等を立ち上げた。2013年度より、京都地域包括ケア推進機構に認知症総合対策、地域リハビリ支援、看取り対策の3大プロジェクトを策定し、リハ部会を設置し、従来の地域リハ推進、リハ医等養成、先端的リハ治療を3本柱として事業化を進めている。

3. 当面のリハ課題

現在、京都府医師会が事務局となり京都府共通の大腿骨近位部骨折・脳卒中地域連携パス会議には70病院、19老健施設など111施設の参加により京都府全域での地域連携パスのIT化を推進している。同時に、回復期リハ病棟と訪問リハ事業所の整備事業、介護高齢者福祉施設等への巡回相談事業、摂食嚥下等支援事業等によりリハ供給体制整備と急性期～回復期～生活期のシームレスな連携体制づくりを目指している。そして、地域リハ支援センターに委託した地域リハコーディネーターがケアマネージャー・かかりつけ医、地域包括支援センターや地域ケア会議に協力し、「京都市域包括ケアシステム」の圏域リハ拠点になることである。今後とも、近畿地方会の先生方のご協力を心よりお願いいたします。

兵庫県

兵庫県リハビリテーション協議会の活動紹介

兵庫県リハビリテーション協議会会長
(兵庫県洲本保健所長) 柳 尚夫

日本リハ医学会近畿地方会の会員の皆さんに、当協議会を紹介します。設立は、1970年代の始めで、既に40年以上の歴史があります。この組織は、兵庫県立総合リハセンター長を永年勤められた澤村誠志氏の「同じノーマライゼーションの理念を追って地域で汗を流している人々が、保健・医療・福祉・教育・職業などの縦割り機構の中で分かれており、お互いの情報が欠如していると感じた。そこで、その交流の機会を作ることの重要性を感じ、それぞれの職業を越えて参加できるリハ研究会設定の必要性を感じた」(リハビリテーション研究1997年5月から引用)ことから、つくられたもので、行政、医療保健福祉関係者、リハ関連職能団体そして障害当事者団体と幅広い関係者による組織です。運営は、長年にわたって澤村氏の公私にわたる個人的ネットワークによって続けられてきましたが、2012

CONTENTS

◆近畿地方会各府県におけるリハ活動	1-2頁
◆新幹事の抱負	2頁
◆新専門医に聞く	3-5頁
◆第35回日本リハビリテーション医学会 近畿地方会学術集會会長挨拶	5頁
◆第35回近畿地方会開催概要	6頁
◆市民公開講座を開催するにあたって	6頁
◆2013年度近畿地方会研修会カレンダー	7頁
◆編集後記	7頁

年より私が会長職を引き継ぎました。私自身は、リハ医ではなく、公衆衛生と精神保健を専門とする医師であり、兵庫県行政で仕事を始めてまだ5年目ですので、澤村氏のようなカリスマのリーダーにはなれません。そのため今後は、協議会に参加の各機関や当事者団体の代表者の方々に、主体的に参加いただくことで、県内のリハネットワークを形作ろうと考えています。またHPも開設しましたが、情報量は不十分で県民にリハへの理解を得るためには、まだまだこれからです。

<http://www.hwc.or.jp/reha-kyou/index.htm>

活動として、年に1回は県リハケア大会を開催しています。今年度は平成26年3月2日に兵庫県介護支援専門員(ケアマネ)協会が担当をして「多職種協働によるチームケアの推進〜リハ

ビリテーションの可能性〜」をテーマに行われる予定です。全国的には、超高齢社会を目前にして、高齢者施策としての「地域包括ケア」が熱心に議論されていますが、残念ながら障害者は、この構想からは抜け落ちています。協議会では、このような高齢者と障害者を分けて地域作りを考えるのではなく、統合された形の地域づくりを目指した考え方を具体的活動とともに、兵庫県から全国に発信できればと考えております。また、当協議会では、専門職と当事者が対等に話し合い、同じ目線で地域リハビリテーションを語ることが可能です。このような貴重な場を継続させるためにも、県内外の多くのリハ医の方々に、応援いただけることを願っております。

特選

新幹事の抱負

新幹事の自己紹介です。経歴も専門領域もそれぞれ異なりますが、リハ医学にける熱意は大きく、近畿地方会の多様性と専門性がアップしました。

(平成24年度 第2号(通巻第17号)に掲載できなかった分です。分割掲載となりましたことにお詫びいたします。順不同です。)

幸田 剣 和歌山県立医科大学リハビリテーション科



私はリハ専門医を目指して初期研修を受け、研修施設でリハ医として研鑽をつみました。その後、和歌山県立医科大学で田島文博教授のご指導を受け、現在は日本リハ医学学会指導責任者として後進の指導と専門医の育成を担当しております。臨床では、“患者第一主義”と“Whole body(全身)の医療”の教念に従い、徹底した急性期リハの推進に努めております。痙攣に対するボトックス治療や手術治療、脊損者を対象とした超音波での褥瘡の早期診断や座圧測定にも力を入れています。研究では、ヒトを対象とした自律神経調節や運動と免疫、急性期リハの有用性や安全性を明らかにするための循環応答の研究を行い、ISPRMをはじめ、国際学会、全国学会で発表しております。社会的活動としては、和歌山県の高次脳機能障害者支援普及事業の委員を務め、学会活動では第7回日本褥瘡学会近畿地方会学術集会実行委員、第46回日本脊髄障害医学学会幹事を務めました。

経験は十分とはいえませんが、近畿地方会の先生方のご指導を賜り、幹事の一人としてリハビリ医療の発展、専門医の育成や研究活動の推進に努めたいと考えております。何卒、今後とも一層のご指導ご鞭撻の程賜りますようお願い申し上げます。

宮内 義純 奈良県総合リハビリテーションセンター



私は、骨軟部腫瘍を専門領域として活動を続けて参りました。四肢の悪性腫瘍の治療といえば切・離断術が主流であった時代から患肢温存術が中心の今日までの治療の進歩をつぶさに見て参りましたが、患肢機能は完全に戻るわけではありません。今後は、急性期医療のみならず、リハビリテーションへの関わりを通じて患者さんの機能回復のお手伝いをしたいと考えております。平成23年4月から現在のリハビリテーションセンターに異動し、障害のある方の治療に目を向けて参りました。ここで感じましたことは、自分のことが自分でできない方の多いことです。様々な原因はあろうかと思いますが、加齢に伴う全身の脆弱化が基礎にあることは間違いなくと考えます。日本は男女ともに世界に冠たる長寿国であります。しかし、自立した生活を送ることのできる健康寿命は十分ではなく、もっと延伸すべきであると共に医療者が努力すべき課題であると考えております。今後、私は整形外科医の立場から当センターにてロコモ外来を開始してロコモティブシンドロームの普及と健康寿命の延伸に努めたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

三橋 尚志 京都大原記念病院



この度近畿地方会幹事を拝命いたしました京都大原記念病院の三橋です。1982年京都府立医科大学卒業後、整形外科医として関連病院で手術を中心に治療を行い、主に運動器のリハビリテーションに関わってきましたが、1991年現在の病院着任後はリハビリテーション部長として脳血管系にも関わるようになりました。1993年にはリハビリテーション総合承認施設の取得、2000年には回復期リハビリテーション病棟の開設を行い、2004年からは回復期リハビリテーション病棟連絡協議会の理事として主に教育、研修部門を担当して参りました。2001年から6年間は京都大原記念病院の院長、2007年以降は介護老人保健施設博寿苑の施設長として、回復期リハ、生活期リハおよびその連携を中心に活動しております。現在は一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会の常任理事・研修委員長として協会の運営および会員の教育、研修を担当しており、平成25年度の担当研修事業は全職種研修会10回、医師研修会2回、病棟管理者研修会1回、診療報酬改定説明会1回の開催を予定しております。これまでの経験を生かして近畿地方会の運営に微力ながら携わりますので、よろしくお願いいたします。

新専門医 に聞く

平成25年度に新しくリハ専門医になられた先生に抱負を語っていただきました。専門領域がそれぞれ異なりますが、リハ医学にける情熱は大きく、これからの近畿地方会を引っ張る新進気鋭の方々です。近畿地方会へのご支援を期待しております。

今回は多数の先生が新専門医となられたこともあり、紙面の関係上次号と2回に分けて掲載させていただきますことを御了解いただきますようお願いいたします。

河野 悌司 森之宮病院



この度リハビリテーション科専門医の一員として認定いただきました。私は、平成13年に大阪大学医学部を卒業し、神経内科医として主に脳卒中を中心とした神経疾患の診療に携わってまいりました。平成21年より現在の勤務先（森之宮病院）へ赴任し、リハビリテーションの業務に従事しております。回復期の患者さんを担当することで、急性期診療の時代には持ちえなかった視点を得ることができ、脳卒中の機能予後や二次予防対策について多面的なとらえ方ができるようになりました。また、神経リハビリテーション研究部での神経損傷の回復に関する臨床研究活動にも加えていただき、日々貴重な経験をしております。

リハビリテーション医学は様々な領域が融合している学際的なフィールドであり、また他のどの臨床医学分野よりもチームアプローチが重要な領域であると感じております。今後研鑽を積み、担当している患者さんの診療を通じて少しでも社会への貢献ができればと考えておりますが、未熟者でもあり、諸先輩方からのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

寺田 央 十条武田リハビリテーション病院



始めまして、この度専門医の末席に加えていただきました十条武田リハビリテーション病院の寺田と申します。私の医師としてのキャリアは、胸部心臓血管外科医として始まりました。毎日手術や術後管理などに追われる生活で、患者様やご家族とお話する機会も少なく術後の障害に関しては「後遺症です、後はリハビリテーション次第です。」と説明しておりました。ある時偶然障害を持ったまま自宅に帰られた患者様と接する機会があり、病院とは違う生き生きとした姿を目の当たりにしました。それを機会に対象臓器だけをみる医療から、「患者様、患者様のご家族、生活環境など」を理解して治療する医療に興味をもつようになりリハビリテーションの世界に飛び込みました。

これからも患者様の「生活の質の向上」の為に、安全で先進的な質の高い医療を提供できるように心がけていきます。又、出来るだけ患者様とご家族様のご希望を聴講し、一人でも多くの患者様が適切な時期に、一番良い状態で自宅に帰っていただけるように努力してまいりますのでご指導ご鞭撻の程宜しく願いいたします。

渡邊 学 大阪府立急性期・総合医療センター



このたびリハ医学会専門医に仲間入りさせていただきましたので宜しくお願いいたします。昭和51年の大学卒業以来、脳循環・代謝の病態生理の研究や脳卒中の急性期医療にたずさわってきました。その間、患者さんが過ごす何十倍、何百倍という慢性期の治療に関してはなおざりがちになっていることに自責の念に駆られていました。そこでH14年日本リハ医学会に入会させていただき、また当医療センターとの統合が決まっていた府立身体障害者福祉センターにH18年に職に就きました。いかなる専門医にも縁の遠かった私ですが、リハ医学会専門医こそは私の目指す、臓器ではなく「ヒト」を観る医療にふさわしい資格と考えチャレンジさせていただきました。現在は高次脳機能障害を主体に診療にたずさわっておりますが専門医になった限りは幅広いリハの分野で少しでも貢献させていただきたいと考えておりますので、今後のご指導お願いいたします。

丸本 浩平 兵庫県立リハビリテーション西播磨病院リハビリテーション科



これまで私は老年内科医、神経内科医として臨床経験を積んでおりましたが、薬物治療の限界とリハビリテーション（以下リハ）の重要性を肌で感じたため、リハ科に転科しました。そして兵庫医科大学病院リハビリテーション部にてリハ科専門医のための研修を受ける機会を頂きました。最初はリハリハビリ科医が何をすれば良いのかわからず、戸惑いもありましたが、日々の臨床やセミナーなどの教育体制に後押しされ、徐々にリハリハビリ科医的な考え方が身についていったように思います。現在は兵庫県立リハビリテーション西播磨病院にて回復期病棟で脳卒中患者を障害者病棟でパーキンソン病を含めた神経変性疾患患者を対象としてリハリハビリを行っております。今後もどんどん進歩していくリハ医学の知識をupdateさせながらも、地域住民に寄り添えるリハ医療にすこしでも貢献できるように精進していこうと思っております。引き続き御指導ご鞭撻の程よろしく願い申し上げます。

**鉄村 信治 医療法人健和会奈良東病院**

この度、リハビリテーション専門医の認定をいただきました、鉄村信治（てつむらしんじ）と申します。平成7年に大阪医科大学を卒業し、整形外科医として勤務してまいりました。各関連病院にて勤務の後、現在は回復期リハビリテーション病棟にてリハ科医師として働いております。当院は重症、高齢患者さんが多く、治療に難渋するケースも多々あります。しかし、当然ではありますが、今後ますますニーズが増える高齢者医療にはリハビリテーションが不可欠であります。質の高いリハビリ提供を目指し、またリハビリテーションの重要性を他科の医師に周知していく事が私の役目であると考えております。まだまだリハ医としては半人前ではありますが、さらなる研鑽を重ね地域医療に貢献出来るよう頑張りたいと思います。今後ともご指導をお願い致します

**西村 行秀 和歌山県立医科大学**

和歌山県立医科大学の西村行秀と申します。現在、同大学でリハビリテーション科および整形外科医師として勤務しております。整形外科の専門医でもあり、もともと機能再建や運動器に興味を持っていたこともあり現在に至っております。もちろん局所としての疾患や専門知識の重要性も大切なことでありますが、全身としての人間らしく活動できる機能の重要性がもっとも大切であると考えております。この全身という人間の機能を最善に導くことができるよう、局所からしっかりと学び極めて行きたいと思っております。今回、日本リハビリテーション医学会専門医を頂いたことで、リハビリテーション医学会に少しでも貢献できるよう研鑽を積み、努力をしたいと考えております。皆様からご指導賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

**池田 巧 京都府立医科大学附属病院リハビリテーション部**

私は京都府立医科大学を平成5年に卒業し、運動器疾患を中心に臨床や研究に携わってきました。とくに脊椎・脊髄疾患の保存療法、手術療法およびリハビリテーション（リハ）を専門としております。治療法の進歩や低侵襲化により、患者の早期回復、早期社会復帰が可能となった一方で、残存した重度の機能障害への対応が課題として残っていました。平成18年から大学に異動となり、この課題に挑戦すべく広い視点を持ちリハ部での活動を開始しました。脳・脊髄疾患由来の重度痙縮に対する治療や、椎間板や骨再生に関する基礎的研究も進めております。今後は、基幹病院に勤務するリハ専門医としての役割を果たしていくだけでなく、新専門医制度への移行準備、研修プログラムの作成など重要な案件に対しても積極的に取り組んでいきたいと考えております。リハ医療と医学の発展に少しでも貢献できるように頑張る所存です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

**内山 侑紀 兵庫医科大学ささやま医療センター**

この度、リハ専門医を取得させて頂きました、内山侑紀と申します。私は臨床研修医修了後、兵庫医科大学リハ科に入局し、大学病院と一般の回復期病院を経て、現在は兵庫医科大学ささやま医療センターにて地域を担う急性期～回復期～維持期のリハビリに携わっております。もともとは内科医を目指していましたが、疾患に囚われず、患者さんを広い視点から診たいという思いから、この世界に飛び込みました。リハビリでは疾患だけでなく、障害や社会的背景にまで切り込んでアプローチを行っていくところや、またチーム医療としての多職種との連携にとっても魅力を感じています。

今後は、さらに「型にはまらないリハビリ」をモットーに、さらなる臨床能力の向上とともに、様々な研究活動にも興味をもって取り組んでいきたいと考えております。皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほど頂けますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

**上田 昌美 近畿大学リハビリテーション医学講座**

近畿大学リハビリテーション医学講座の上田昌美です。平成12年大学卒業と同時に神経内科医局に入局し脳血管障害や変性疾患、免疫性神経疾患など多彩な疾患を経験させていただきました。その中でリハビリテーションの重要性を感じるうちに、魅力にとりつかれ、リハビリテーション医学に足を踏み入れました。恥ずかしながら専門医試験の勉強を通して、初めて、自分の知識不足、認識不足に気づかされることも多くありました。今回、リハビリテーション専門医を取得することができ、やっとリハ医としてスタートラインにたつたと痛感しております。各科のスペシャリストが在籍する大学病院での勤務というチャンスを生かし、今後たくさんの症例を経験し、患者さんはもちろん他科の医師、コメディカルに信頼される専門医を目指して、研鑽を積んでいきたいと思っております。

これまでご指導いただきました先生方に感謝いたします。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。



藤井 優子 愛仁会リハビリテーション病院



このたび、リハビリテーション科専門医の認定をいただきました藤井優子と申します。平成19年に大阪市立大学を卒業し、済生会中津病院で初期研修を修了後、大阪医科大学リハビリテーション医学教室に入局しました。その後、大阪医科大学附属病院、大阪府立急性期・総合医療センター、愛仁会リハビリテーション病院で多くの症例を経験させていただきました。ご指導いただきました先生方に、あらためて感謝申し上げます。今回専門医に認定していただき、リハ医としての第一歩を踏み出したと身の引き締まる思いです。まだまだ知識も技術も未熟であることを痛感する毎日ですが、患者様のQOL向上に少しでも貢献できるよう、研鑽を積んでまいりたいと思います。御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



田崎 智子 兵庫医科大学病院リハビリテーション部



このたびリハビリテーション専門医に加えていただくことになりました、兵庫医科大学病院リハビリテーション部の田崎智子と申します。平成21年に臨床研修医から兵庫医科大学リハビリテーション医学教室に入局し、道免和久先生をはじめとする諸先生方のご指導のもと、兵庫医科大学病院、ささやま医療センター、西宮協立リハビリテーション病院で、急性期から慢性期にわたる多種多様な疾患について勉強させていただきました。本年7月から兵庫医科大学病院のスタッフとして働くことになり、身の引き締まる思いです。リハ医として更なる研鑽に励む一方で、診療、教育、研究に微力ながら尽くしてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



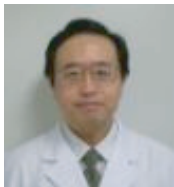
嶋 聡子 愛仁会リハビリテーション病院



この度、リハビリテーション科専門医に加えていただくことになりました嶋聡子と申します。市中病院にて初期研修を終了後、2008年より大阪医科大学総合医学講座リハビリテーション医学教室に入局し、現在愛仁会リハビリテーション病院に勤務しております。その人が再びその人らしい生活を送るために、障害の程度や環境に応じてリハビリテーション医療を提供できる仕事をしたいと思っています。全身管理に始まり退院後の生活環境調整までと広い範囲であり、多職種とのチーム医療の重要性を実感しております。これからも諸先生方に御指導いただき、研鑽を積んでいきたいと思っています。今後とも御指導、御鞭撻のほどなにとぞよろしくお願い申し上げます。



辻野 精一 大阪府立急性期・総合医療センター



大阪大学で学位を取得し神経内科専門医に認められたのち渡米し、コロンビア大学で3年半、帰国後も国立精神・神経センター神経研究所で9年間、遺伝性神経・筋疾患の遺伝子解析および遺伝子治療の研究に携わり、その後は医薬品医療機器総合機構および医薬基盤研究所の研究振興部において研究費配分に関わる行政職として勤務し、自分も両親も歳をとったなあと自覚するこの頃になりようやくリハビリテーション医療の重要性に気付くに至り、主として回復期リハビリテーション病棟専従・専任医としてその臨床に邁進すること6年、この度リハビリテーション医学会専門医に認めていただきました次第です。今後益々精進しこの分野の発展に貢献したい所存ですのでご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

第35回日本リハビリテーション医学会 近畿地方会学術集会および専門医・認定臨床医 生涯教育研修会開催にあたって

第35回リハ医学会近畿地方会学術集会
会長 平林 伸治
大阪労災病院リハビリテーション科

2013年9月21日(土曜日)に第35回日本リハビリテーション医学会近畿地方会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会を大阪市中之島にある、大阪大学中之島センターにて開催させていただきます。

開催時間は13時よりとし、土曜日に勤務されている先生、ご遠方の先生にも参加していただけるよう、準備させていただきます。

生涯教育研修会では、パーキンソン病、経管栄養(胃瘻)、膝関節の変性疾患をテーマに3名の講師の先生をお招きします。大阪保健医療大学—センター長 阿部和夫教授には「パーキンソン病に対する運動療法—運動症状および非運動症状に対する効果」について、西宮市立中央病院—院長 根津理一郎先生には「内視鏡的胃瘻造設術(PEG)を用いた栄養管理の現状と問題点」を中心として栄養からトラブル問題について、近畿大学医学部リハビリテーション科—福田寛二教授には「運動器リハビリテーションの最近の話題」についてご講演を賜わる予定です。いずれの講義におきましても、リハビリテーション診療や研究に役立つものと確信致しております。

一般演題は13時から開始の予定です。多数の先生方にお越し頂き、活発な議論が出来ますことを切に願っております。会員の先生方 宜しく御願い申し上げます。

第35回日本リハビリテーション医学会 近畿地方会学術集会および 専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2013年9月21日 13:00～19:00
会場：大阪大学中之島センター
大阪市北区中之島4-3-53 Tel.06-6444-2100
会長：平林 伸治（大阪労災病院リハビリテーション科）

1. 一般演題(認定単位:10単位)

演題申し込み要領：E-mailにて、大阪労災病院リハビリテーション科 平林 伸治 宛(shirab@orh.go.jp)まで所定の様式(近畿地方会HP参照)でお送りください。必ず受信確認の連絡を1週間以内にいたしますので、万一連絡がない場合には、電話連絡をお願いいたします。
(大阪労災病院リハビリテーション科 平林 072-252-3561)

演題締切：2013年7月31日(水)

認定単位:10単位予定

発表形式:MacPCの方は必ずご自身のPCをお持ちください。
Windowsの方はPCでもUSBメモリーでも受け付け可能です。

2. 教育講演(認定単位:30単位予定)

1、「パーキンソン病に対する運動療法

ー運動症状および非運動療法に対する効果」

大阪保健医療大学大学院教授 阿部和夫先生

2、「内視鏡的胃瘻造設術(PEG)を用いた栄養管理の現状と問題点」

西宮市立中央病院院長 根津理一郎先生

3、「運動器リハビリテーションの最近の話題」

近畿大学医学部リハビリテーション科教授 福田寛二先生

認定単位:1講演10単位、受講費:30単位一括3,000円

(別途参加費2000円が必要)

会場へのアクセス



お問い合わせ先 大阪労災病院 リハビリテーション科 Tel:072-252-3561

日本リハビリテーション医学会 創立50周年記念事業 「リハビリテーションを考える日」市民公開講座 を開催するにあたって

市民公開講座近畿地区実行委員会 大澤 傑、菅 俊光、平林 伸治
事務局:大阪労災病院 リハビリテーション科 平林 伸治

日時：2013年9月29日(日)14:00～16:00
会場：大阪労災病院(大阪府堺市北区)

2013年9月29日(日曜日)に市民公開講座「リハビリテーションを考えるー地域でいきいき楽しく生きる」を堺市北区長曾根町にある、大阪労災病院3階講堂にて開催させていただきます。

開催時間は14時から16時です。関節リウマチ、摂食嚥下、障害とどのように向き合うかをテーマに3名の講師の先生をお招きします。大阪医科大学リハビリテーション科教授 佐浦隆一先生には「リウマチ性疾患とリハビリテーション」について、箕面市立リハビリセンター長 田中一成先生には、「嚥下障害のリハビリテーション」について、医療法人良人会かわたペインクリニック心療内科、視覚障害をもつ医療従事者の会ゆいまー代表 守田稔先生には、「障害とどのように向き合ってきたかーリハの大切さ」について講演を賜る予定です。

別の会場に支援機器、摂食嚥下補助食品など、障害に合わせたリハビリ関連用品を展示致します。同時に各々の障害に合わせた地域サービスが受けられるよう相談できるスペースを設け、堺地域の理学療法士協会、作業療法士協会、言語療法士協会、在宅看護師協会、ケアマネジャー協会の皆さんと協力して対応させていただきます。他にも骨密度測定や身体能力を測定する器械を準備して市民の皆様方の健康推進、疾病予防、地域リハビリテーションの充実に役立てて頂きたいと存じます。



アクセス:JR阪和線・南海高野線 三国ヶ丘駅 バス約10分
(系統番号35・特35・41・特41 1番のりば阪和堺市駅前行・地下鉄新金岡駅前行・長曾根住宅前止行)
地下鉄御堂筋線 新金岡駅 徒歩約10分

2013年度 近畿地方会研修会カレンダー

◆ 第35回学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2013年9月21日(土) 13:00～19:00

会場：大阪大学 中之島センター

演題：1.『パーキンソン病に対する運動療法－運動症状および非運動療法に対する効果』

大阪保健医療大学大学院 教授 阿部 和夫 先生

2.『内視鏡的胃瘻造設術（PEG）を用いた栄養管理の現況と問題点』

西宮市立中央病院外科・西宮市立病院 院長 根津 理一郎 先生

3.『運動器リハビリテーションの最近の話題』

近畿大学医学部リハビリテーション医学教室 教授 福田 寛二 先生

担当幹事：平林 伸治（大阪労災病院リハビリテーション科）

◆ 第50回専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2013年11月2日(土) 13:00～16:30

会場：薬業年金会館（大阪薬業厚生年金基金）301号室

演題：1.『がんリハビリテーション最前線 リハ科専門医の役割とは？』

慶応義塾大学リハビリテーション医学教室 准教授 辻 哲也 先生

2.『宇宙医学とりハビリの課題』

防衛医科大学防衛医学研究センター異常環境衛生研究部門 教授 立花 正一 先生

3.『上下肢痙縮に対するボツリヌス療法の実践』

旭川医科大学病院リハビリテーション科 教授 大田 哲生 先生

担当幹事：小口 健（白浜はまゆう病院リハビリテーションセンター）

◆ 日本リハ医学会近畿地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2013年11月10日(日) 13:00～15:00 開催予定

会場：京都府立医科大学 図書館ホール（予定）

※当日は同じ会場で第17回京都地域リハビリテーション研究会が開催されます。

担当幹事：武澤 信夫（京都府リハビリテーション支援センター）

◆ 日本リハ医学会近畿地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2013年11月16日(土) 開催予定

会場：三宮研修センター（予定） ※当日は同じ会場で兵庫県リハ医学会学術集会が開催される予定です。

担当幹事：陳 隆明（兵庫県立リハビリテーション中央病院）

◆ 第36回学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2014年2月～3月 開催予定

会場：京都府(予定)

担当幹事：門 祐輔（京都協立病院）

編集後記

このニュースレター第18号が皆様に届きます頃には、夏も本格的になっていることと思います。2011年台風12号により紀南地方に大水害があったからは、夏に雨が少しかり続くとすぐ気になってしまいます。今回は「近畿地方会各府県におけるリハ活動」としまして、京都府と兵庫県の代表の先生方にご執筆頂きました。

新専門医制度の検討がなされている最中ですが、各リハ研修施設間の連携が一層大切になっていくとのこと。こういった中、各府県毎のネットワークを把握しておくためには参考になるかもしれません。次号にも他の近畿府県の先生方にもお願いしたいと思います。宜しくお願い致します。（小口 健）